

## 令和6年度「地域が教室」はじめの会 第2部「語り場」記録【まとめ】

### ＜見学した感想など＞

- ・授業の様子を見学して、どの教室でも児童生徒の心の底からの笑顔がよかった。先生方とも、心と心の言葉でやり取りしていて、信頼関係がしっかりとできていることを感じた。
- ・障害福祉で障害者手帳、障害福祉サービスなどの手続きをする際に名前を見る程度なので、今回、学習している児童生徒の様子を見学することができ、大変よかった。
- ・はじめの会、まとめの会と行っているが、是非、中間の会も行ってもらいたい。
- ・特別支援学校の生徒が学校卒業後にどのような進路に進んでいるのか、今後学んでいきたい。
- ・地域との関わりを作っていることで、みんなに見てもらっている。はじめの会の発表もみんな楽しく活動している。先生方の陰の努力を感じる。

### ＜活動に関する提案＞

#### ○中学部の活動

- ・スムージーやマドレーヌの開発について、JA婦人部やブルーベリーファーム神代（わらび座）の協力を得てすすめたり、イベント等で販売したりしてはどうか。
- ・障害者向け観光ガイドブックを制作してはどうか（仙北市「田沢湖・角館・西木耳マーク観光マップ」のようなもの）。
- ・外部の講師を呼んだ際に、イベント情報を聞くのもいいのではないか。
- ・鎌足和紙を使った製品で、名刺など作ることはできないか。
- ・生徒が先生になり、地域の方に現在やっていること（新たにやるのではない）を伝えて一緒に活動する。（鎌足和紙の作成、樺細工、太鼓など）
- ・（生徒の街を空から見てみたいという願いに対して）熱気球に乗って、上空から角館の観光地を見学できるのではないか。ドローンで観光地を撮影したのを見ることもできる。瀧神巧業に操縦資格をもつ技術者がいるので、協力してもらえるのではないか。

#### ○高等部の活動

- ・角館高校インターアクト部は、地域貢献をテーマにしている。一緒に施設訪問など、地域貢献の活動をしたらどうか。
- ・角館高校のおやま囃子部は人が少ない。交流をして、太鼓とのコラボや、踊りを教えてもらうことができるかもしれない。
- ・太鼓演奏は皆が一つになれる活動である。生徒が演奏しているのを見て感動した。ぜひ、太鼓交流や様々な場所での演奏をしてほしい。
- ・以前は元気してらがフェスティバルやふれあい芸能発表会等でも演奏していた。こういった行事で演奏するのもいいのではないか。
- ・産業祭等、仙北市の行事で演奏するのも案の一つ。
- ・観光科の学習は、秋田県唯一。ホームページでもっと意図や思いを強くPRしてはどうか。
- ・ゲストハウスシューへの納品では、案内だけでなく。領収書の準備なども行っている。流通について学べているのはよい。

#### ○その他

- ・卒業してもできること（学校以外のよりどころになる場所）があるとよい。
- ・卒業後も好きなことを続けていけるのがよい。職員も児童生徒もみんなが子どものことを話してくれて、とてもありがたい。アットホームで温かい。

- ・地域での活動を無理なく継続していけるように、行政や地域の方、関係機関の方との連携が大切だと思う。職員の異動があっても続けて継続していけるような体制作りが大切。
- ・中央公民館では、7/13に市役所西木庁舎で防災体験教室を行う計画を進めている。そちらでは、障害のあるなし関係なく参加者を募っていく。今は、外国の方も生活しているので、区別なく行える教室を計画していきたい。
- ・障害者理解をより一層進め、市民の方々からの協力を得ることも大切である。
- ・せんぼく校の熱意がすごい。よりよい方向に向かうように、活動の精選が大切だと思う。
- ・発信にとどまることなく、地元の顔役の方々から協力を得て、周りの人たちを呼び込み一緒に活動するイベントを企画・実行することが大事である。人材の紹介や活動への参加など、保護者も積極的に協力したい。
- ・武家屋敷案内人。武家屋敷案内人の組合があり、何かあればいつでも協力できる。
- ・角館のお祭りで中日の佐竹上覧のときにどこかの丁内に混ぜてもらって、やまを引っ張らせてもらうとよいのではないか。

### <宣伝についてなど>

- ・せんぼくいきいき5デイズの宣伝活動期間は、外国人、特に台湾の方が多い。小学部のプラカードに外国人観光客向けの外国語表記、QRコードを使った案内をしてはどうか。
- ・国際教養大学学生や角館高校生徒の協力を得て、プラカードやチラシの内容を翻訳してもらい明示することも考えたい。翻訳機能を使ったPR動画を作るのもいいと思う。
- ・内陸線の利用駅としては、角館駅や松葉駅が多いが、滞在時間が短い。滞在時間を長くできるように、映えスポット作りに協力してほしい。
- ・せんぼく校が製作協力したPR動画を見る機会が無かった。既存のPR動画やパンフレットなどに改良を加えて、リメイクする方法もある。
- ・外国の方々の多くは、バスツアーで角館を訪れるが、角館は通過型観光地となっている。製品の販売場所を工夫する必要がある。
- ・角館駅前の「かくのだて物産館」が廃止・リニューアルする予定である。物販スペースを事前交渉して作業学習製品を扱ってもらい、販路拡大をねらう。
- ・クリオンなら売店もあり、一角に製品を置かせてもらえらると思う。宿泊施設は滞在時間が長いので、製品購入につながる。宿泊施設への納品を検討しては。
- ・社会に知ってもらうための一番の媒体はテレビや新聞、市の広報等であるが、本校が大曲支援学校花火の前に行っているダンスや太鼓演奏活動など、児童生徒が地域に出て活動することが一番の理解啓発につながる。

### <期待することなど>

- ・学校生活でたくさん体験し、触れ合い、感動して、泣いて、様々なことを経験してほしい。
- ・せんぼく校の取組に感動し、可能性を感じた。今後に期待したい。
- ・地域の方を招いての技術指導や体験活動や学校から出かけて外で学ぶ機会などを作ってほしい。地域の方、学校、双方が共有しながら活動していくことができる。
- ・会社や新しいところに行って最初に聞かれることは、障害のことよりも、「おめの家どごよ」など出身地のことを必ず質問される。せんぼく校では、地元のいいところを学習しているので、これからも地元のいいところをたくさん話せる人を育ててほしい。
- ・せんぼく校には、これからも地域に関わる学校であることを期待したい。
- ・クマの心配もあるが、仙北市は自然豊かな地域である、直接体験してもらい、それを伝えていく役割を担ってもらいたい。
- ・小中学校や高等学校の学校間や同世代との交流で障害理解が進むと思う。